

# ふくやまピース・ラボ事業 2022年度活動報告集



福山市人権平和資料館



# 「ふくやまピース・ラボ」とは？

「ふくやまピース・ラボ」とは、戦争を知らない若い世代が、福山空襲や原爆について学習し、平和について考え、活動を通して平和へのメッセージを発信することを目的に活動しています。2022年度（令和4年度）で発足から8年目を迎えました。



2015



2017



2019



2016



2018



2020



2021

## 1年間の活動記録

2022年	5月22日(日)	開講式/オリエンテーション
	6月5日(日)	講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」
	6月19日(日)	フィールドワーク「市内戦争遺跡巡り」
	7月10日(日)	講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」
	7月24日(日)	「原爆・福山戦災死没者慰霊式」に向けて
	8月5日(金)	「ヒロシマ青少年平和の集い」参加
	8月8日(月)	「原爆・福山戦災死没者慰霊式」参列
	8月20日(土)	核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす 「高校生1万人署名活動」参加
	9月4日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて①
	9月18日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて②
	10月8日(土)	「ピースウォーク」開催に向けて③
	10月23日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて④
	10月30日(日)	「ピースウォーク」開催に向けて⑤
	11月6日(日)	「ピースウォーク」開催
	11月20日(日)	「ふくやま人權・平和フェスタ」に向けて①
	12月4日(日)	「ふくやま人權・平和フェスタ」に向けて②
	12月10日(土)	「ふくやま人權・平和フェスタ」に向けて③
12月11日(日)	「ふくやま人權・平和フェスタ」参加	
12月18日(日)	ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」参加	
2023年	1月22日(日)	講義「被爆体験 親子の別れ」 1年間の活動を振り返って「ピースアート2022」の制作①
	2月12日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアート2022」の制作②
	3月5日(日)	1年間の活動を振り返って「ピースアート2022」の制作③
	3月19日(日)	修了式

# 活動報告（全23回）

## 第1回 5.22 開講式／オリエンテーション



継続して参加しているメンバーに、第8期生の新たなメンバーを加え、ふくやまピース・ラボ8年目の活動がスタートしました。

オリエンテーションでは、これからの活動で取り組みたいことや平和のためにできることについて考え、発表を行いました。

### ■これから取り組んでいきたいこと

- ・平和の大切さを次の世代に伝えたい。
- ・福山空襲のことを知らない人に伝えたい。
- ・戦争を体験者から聞ける最後の世代として思いを聞き、学びたい。

一緒に活動するメンバーそれぞれの思いや考えを交流することができました。

## 第2回 6.5 講義「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」



▶ 講師：北村 剛志さん  
(元人権平和資料館副館長)

講義では、福山空襲の実相や当時の暮らしについて当時の写真や資料を用いて説明していただきました。戦争の「抑止力」は武器ではなく、私たち一人ひとりの戦争は嫌だという意識であると、平和への願いが込められた詩を紹介していただきました。

### 《感想》

- ・福山に住んでいてもなかなか学習する機会が無いので、当時の詳細を学べてよかった。
- ・正しい情報を知る大切さがわかった。
- ・一人ひとりの平和を大切にすることが大切だと思った。

### 福山空襲

1945年(昭和20年)8月8日午後10時25分ごろ、テニアン基地から発進したB-29爆撃機91機が襲来し、約1時間にわたり556トンもの焼夷弾が投下されました。焼夷弾は豪雨のように降りそそぎ、福山の街を焼き払いました。市街地の約80%を焼失し、壊滅的な被害を受けました。

そして、福山空襲からわずか7日後の8月15日、戦争は終わりました。

空襲時間	1945年8月8日 午後10時25分から約1時間
爆撃機数	B-29爆撃機91機
投下爆弾	M47(油脂焼夷弾) 4,035発 139.2トン M17(集束爆弾) 1,666発 416.5トン
市街地焼失面積	314ヘクタール(市街地の約80%)
被災者数	47,326人(当時の人口:58,745人) * 1945年8月1日現在
犠牲者数	355人
重軽傷者数	864人

## 第3回 6.19 フィールドワーク「市内戦争遺跡巡り」



福山市人権平和資料館において、福山空襲の概要(使用された爆弾など)について説明を受けた後、福山城公園に現在も残っている戦争遺跡を巡りました。

備後護国神社、慰霊碑(捨生取義の碑、メレヨン島戦没者慰霊碑、陸軍少年飛行兵戦没者慰霊之碑等)、防空壕跡、安部和助別邸(福寿会館)、福山城の戦災石垣の順に説明を受けながら巡りました。この街で起きた悲惨な空襲のことを学び、考えることができました。

## 第4回 7.10 講義「福山空襲～8月8日に体験したこと～」



▶ 講師：森近 静子さん  
(ふくやまピース・ナビ会員)



福山空襲に遭った時の様子，感じたことや当時のくらしについてお話していただきました。講義のおわりには，「平和の祈りは親から子へ，子から孫へと受け継いでほしい。」とメッセージをいただきました。

## 第5回 7.24 第7回 8.8 「第68回原爆・福山戦災死没者慰霊式」 7月24日準備・8月8日参列

2022年8月8日（月曜日），1945年8月8日の「福山空襲」から77年を迎えました。

慰霊式に参列し，ふくやまピース・ラボを代表して3人が追悼のことばを述べました。

「今もなお，世界では様々な争いが起こっています。私たちには，被爆者や戦争体験者の方から直接お話を聞ける最後の世代として，被爆や戦争の体験を継承していく責務があると思います。銃や爆弾を武器にするのではなく人を思いやる心を武器にして，人権を尊重できる社会をみんなで作っていきましょう。私たちは，これからも，未来の「平和」のために，学び，考え，発信する活動を続けていきます。」と，みんなで考えた平和への思い，誓いを訴えることができました。その後，折り鶴献納と献花を行い，犠牲者を悼みました。

これからも，平和の尊さを多くの方に伝えていこうと，平和への思いを新たにしました。



## 第6回 8.5 「ヒロシマ青少年平和の集い」参加



「ヒロシマ青少年平和の集い」に参加する前に，広島市内の被爆建物や広島平和記念資料館等を見学しました。集いでは，中・高校生ピースクラブによる原爆被害の概要の説明や被爆体験講話を聞き，グループに分かれてディスカッションを行いました。同年代の中・高校生が原爆被害について調べ自分たちのことばで説明したり，みんなで話し合いを行う場を運営したりすることに刺激を受けました。また，「被爆者の思いを受け継ぐ方法」について，多くの意見を出し合い考えることができ，大変参考になりました。

第8回 核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす  
8.20 「高校生1万人署名活動」参加

「核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす高校生1万人署名活動」へ参加し、道行く人へ核廃絶の署名をよびかけました。



第9回  
9.4

第10回  
9.18

第11回  
10.8

第12回  
10.23

第13回  
10.30

「ピースウォーク」開催に向けて



第9回から第13回までの活動では、11月6日（日曜日）に開催する「ピースウォーク」に向けて準備を行いました。

「ピースウォーク」は、参加者と一緒には、福山城公園やその周辺に残る戦争遺跡を歩いて巡り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考え、理解を深めてもらうことを目的に開催します。

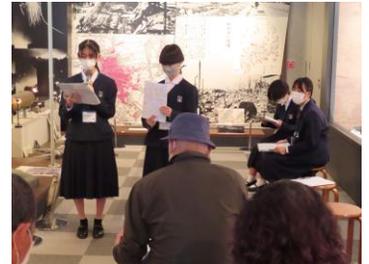
「ピースウォーク」本番に向けて、準備及び当日の役割分担を行い、担当に分かれて準備を行いました。ポイントとなる戦争遺跡を巡り、自分たちの言葉で考えた説明原稿を作成したり、ラボのメンバーがデザインした当日配布用のパンフレット、参加記念品、アンケートなどをみんなで工夫しながら作成したりしました。

当日参加してくださるみなさんに喜んでもらえるよう、協力して取り組みました。

第14回  
11.6 「ピースウォーク」開催

これまでの活動で学んだ、福山空襲や戦時下の暮らしについての情報をもとに、参加者と一緒には福山城公園及びその周辺の戦争遺跡を巡り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて「発信する！」ことを目的に、「ピースウォーク」を開催しました。

ラボのメンバーは、参加されたみなさんに、現在も残っている戦争遺跡を紹介し、平和の大切さについて考えてもらうため、準備を進めてきました。当日は、事前に申し込みをいただいた方、14人の参加がありました。



《参加者の感想》

- ・ 普段通っている通りや色々な所に戦争の名残があることを知り、もっと多くの人を知っておく必要があると思った。
- ・ 福山に住んでいるが、知らないことがたくさんあった。
- ・ 中高生の方の活動を頼もしく思った。応援している。

《ふくやまピース・ラボのメンバーの感想》

- ・ これまで戦争の体験者から話を聞けばかりだったが、こちらが伝える経験は大変勉強になり、考えが深まった。
- ・ 若者の参加をもっと増やしていきたい。



第15回  
11.20

第16回  
12.4

第17回  
12.10

「ふくやま人権・平和フェスタ」  
に向けて

第15回から第17回は、  
12月11日の「ふくやま人  
権・平和フェスタ」向け  
た準備を行いました。



第18回  
12.11

「ふくやま人権・平和フェスタ」参加



「ふくやま人権・平和フェスタ」では、ピース・ラボのメンバー  
2人が司会者として参加しました。また、絵本「母と子の八月八  
日～福山空襲と母子三人像～」の朗読を行いました。

《感想》

- ・緊張したけど、練習どおり上手に読むことができた。
- ・参加してくださった方が福山空襲について考える機会にしてほしい。
- ・他の出演者の発表や展示物も参考になった。



第19回  
12.18

ユニセフ  
「ハンド・インハンド募金」参加



福山駅前で、ユニセフのみなさんと募金活動を行いました。

非常に寒い中で、通行人も少な目でしたが、その  
中で多くの方が、快く支援してくださいました。

第20回  
1.22

## 講義 「被爆体験 親子の別れ」



▶ 講師: 廣中 正樹さん  
(広島平和文化センター 被爆体験証言者)

廣中さんは、1945年8月6日、爆心地から約3.5キロ離れた広島市己斐町（現：西区）で被爆しました。当時5歳でした。

被爆時の様子や・中さんとお父さんの別れについてお話していただきました。

講義後に、それぞれの感想を一人ずつ聞いてくださり、これからも平和について勉強を続けてくださいとエールをいただきました。



第20回  
1.22

第21回  
2.12

第22回  
3.5

## 1年間の活動を振り返って ～「ピースアート2022」の制作～



1年間の活動を振り返り、より多くの方に私たちの活動を知ってもらうため「ピースアート2022」の制作を行いました。ピースアートのデザインは、メンバーそれぞれが考えたものの中から選びました。今年のピースアートは、世界各地で起きている戦争の状況に対して「Permanent Peace」（恒久平和を求めて）のメッセージを込め、みんなで協力して制作しました。

完成したピースアートは、今年も「まなびの館ローズコム」のエントランスホールに展示予定です。



〈展示期間〉2023年3月28日（火曜日）～5月18日（木曜日）



第23回  
3.19

## 修了式



福山市人権平和資料館の渡邊館長から、メンバー全員に参加証書の授与を行いました。渡邊館長から「今年学んだことを次の学びにつなげてほしい。」とメッセージをいただきました。

また、ラボのメンバーは活動を終えての思いを発表しました。

今年度は、久しぶりに多くの活動が行え、参加したメンバーとともに平和について学び、考え、発信することができました。みなさんのこれからの活動・活躍に期待しています。

# 2022ふくやまピース・ラボの活動を終えて

岡川 莉央(中学校1年生)

県外から引っ越してきたので、あまり戦争について知りません。だから、福山空襲等のことを知りたいと思い参加しました。

戦争を繰り返さないために、世界に戦争の悲惨さや平和の大切さを発信していきたいです。

大内 由紀子(高校3年生)

戦争体験者から直接お話を聞ける最後の世代として、福山空襲を体験された方のお話をたくさん聞き学びたいです。戦災死没者慰霊式に参列する等様々な活動をしてまずは自分たちが学ぶところから始め、多くの人に伝えていきたいです。

鈴木 克幸(高校2年生)

平和のために、自分が何ができるか考え貢献していきたいです。

今後も、引き続き多くの人に平和の大切さを発信し続けて行きたいです。



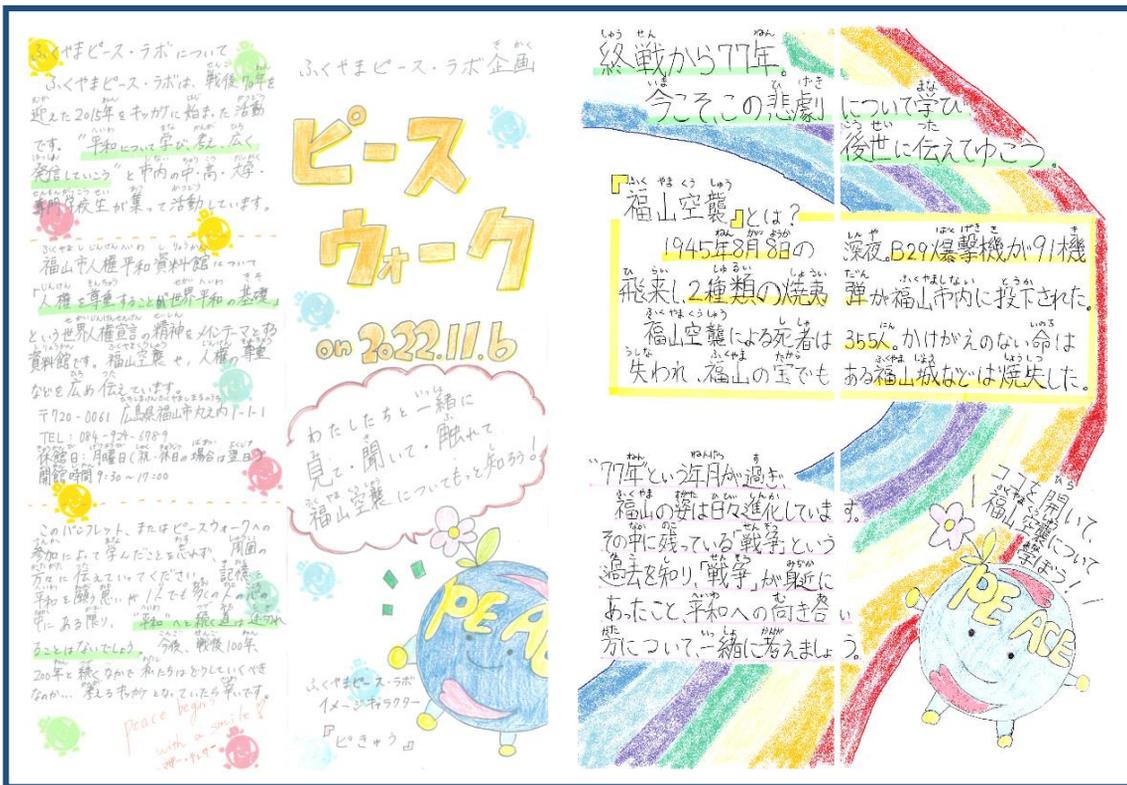
吉田 玲衣奈(中学校2年生)

今年、私は初めてふくやまピース・ラボに参加させていただきました。コロナの影響もあり、私自身は大きなイベントに参加することができませんでしたが、福山空襲について、平和について学ぶことができました。

特に、戦争体験者の方のお話を聞いたことが心に残っています。お話を通して、原爆の悲惨さ、核兵器廃絶の大切さを改めて学びました。今後もラボに参加し、平和の大切さについて学び、発信していきたいです。

檀上 美蘭(高校1年生)

私は、1年間ピース・ラボに参加して今までに知らなかった福山の戦争遺跡を知ることが出来ました。今までは、広島原爆被害の戦争遺跡しか見たことが無かったけど、ピース・ラボに参加し、福山空襲についてのお話を体験者から直接聞いたり、歩いて戦争遺跡を巡ったりして、自分の住んでいる地域で起きていたことについて理解を深めることができました。次年度は、学校の生徒や同年代の若者にも福山空襲や平和の大切さについて自分から広めていきたいです。



ピースウォークのパンフレット

北村 慎太郎(中学校2年生)

空襲経験者や被爆者の貴重なお話を聞くことができたり、戦争遺跡へ行ったりなど、通常では体験することの難しいことをさせてもらえました。募金活動と署名活動をして寄付や署名を集めることはとても大変なことがわかりました。また、広島で全国の平和活動を行っている中高生の人たちと、自分たちのしている活動や戦争について自分の思っている考え等を話し合い、新しい考え方に気づきました。

樽谷 和紗(中学校2年生)

私は、今年初めてふくやまピース・ラボに参加しました。ピース・ラボに参加することで、戦争について詳しく知ることができ、いつもより戦争について考える一年になりました。今年、ピースウォークや絵本の朗読など、色々な行事がありました。参加することができないものもあったので、来年は参加したいです。

## 北村 桃子(高校1年生)

昨年の2月に始まったロシア軍のウクライナ侵攻。インターネット等を通じて、今戦地で何が起きているのかリアルタイムに知ることができ、こんなにも簡単に戦争が始まってしまうことに危機感を強く感じました。

そして、これから重要になっていくのは未来を担う若い世代の平和を追求する強い意志だと思います。私もピース・ラボの活動を通じ、同世代の人々に平和の尊さを伝えていきたいです。

## 矢野 結乙(高校3年生)

今年は受験生ということもあり、思ったように活動ができませんでした。

しかし、コロナで制限されていたイベントが復活し参加できたことが良かったと思っています。イベントを通して、様々な方々に戦争や平和についても知ってもらえることができ嬉しく思います。

これからも、SNSを通じて若い世代にも戦争や平和について知ってもらえるよう発信していきたいと考えています。

### ピースウォークのイラストマップ



## 松脇 汐音(高校1年生)

今年はロシアによる侵略戦争で実際に核兵器使用の可能性があった年でした。私はそんな中、被爆者の方から被爆体験を聞き、核兵器の恐ろしさを改めて知ったと同時に、核兵器がまだ世界には沢山あるという恐怖に駆られました。なぜ、日本は核兵器禁止条約に署名しないのか。核兵器がなくなれば平和になるとは限りませんが、その意欲を忘れてはいけないと思います。私にとって4年目の活動は、様々なことに気づかされ、今一度平和について考え直し、後世に伝えていかないとはいけないと強く思いました。

## 谷口 結萌(高校1年生)

私がピース・ラボに参加して今年で4年目でしたが、毎年参加するたびに新たに学ぶことがあり、改めて平和の尊さを感じることができました。極めて印象に残っている活動は、ピースウォークと人権・平和フェスタです。なぜかという、私が学んだ貴重な体験を多くの方に発信することができた活動だったからです。もっと他の若い人にも伝えることが出来たらいいなと思いました。これから、被爆の体験を直接聞くことがどんどん難しくなっていきます。だからこそ、これからも毎回の活動を大切にしながら、多くの方に、特に若い方に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える活動を続けていきたいです。



# Permanent Peace

— 恒久平和を求めて —



発行 2023年3月  
編集 福山市まちづくり推進部人権・生涯学習課  
〒720-8501  
広島県福山市東桜町3番5号  
TEL (084) 928-1006  
FAX (084) 928-1229